

56年ぶりの東京オリンピック／ パラリンピック開催

Tokyo Olympic/Paralympic in 1964 and 2020



会計理事 荒木純道

1964年10月にアジア初のオリンピックが東京で開かれました。そのとき、私は都立高校の1年生で、大勢のクラスメートと一緒に各国選手団の入場式行進のリハーサル要員として借り出されて、晴れがましい気持ちで国立競技場のトラックを1周したことを思い出します。

そして再び2020年に東京でオリンピック／パラリンピックが開催されることになりました。二度もこうした大きなイベントを経験できるとは考えもしなかったことで、嬉しい限りです。多くの国民がこれを日本社会の更なる発展のきっかけにしたいと願っていると思います。

前回の東京オリンピックのときは、東海道新幹線や首都高速道路をはじめあらゆる社会インフラを本当に突貫工事で作り上げた印象がありますが、今回はもう少し余裕を持って臨めるのではないかと期待しています。（もちろん、首都高速道路などの計画自体は1950年代の高度成長期からあったのでしょうが。）

さてこの50年の間における、日本はじめ世界各国の科学技術の進展と社会インフラの整備には本当に目を見張るばかりです。特に我々の電子情報通信学会が深く関与しているICT技術の進展には想像を絶するものがあります。誰が今日のインターネット技術の圧倒的な普及と影響力を予想したでしょう。1980年代後半の助教授の時代に、研究室の学生と一緒に学科内にイーサネットケーブルを張って、ままとののようなシステムを作ったことが懐かしく思い出されます。また1990年代前半イリノイ大に滞在していたときに情報科学科の学生らがMosaicという画像なども扱えるブラウザを開発しているのにも遭遇しましたが、私は当時その革新性を十分理解するには至りませんでした。

インターネット技術によって、現代の社会には時空間の制約を越えた全く新たなビジネスやコミュニティが創生されるようになったと考えられます。電車に乗ってみれば、大勢の乗客がスマホをはじめとした携帯情報端末でインターネットにアクセスしている光景を至極当然のように目にします。また光ファイバ網の伝送速度は100 Gbit/sまでは規格が策定され商用化も進み、更に400 Gbit/sも超えようとしています。ITS技術は車もインターネット構造の一部として組み込もうとしているかのようです。その意味では、現代社会はインターネット以前と以後でその様相と構造を大きく変えようとしているのでしょう。

今から6年後というのは決して遠い未来のことではありません。でも余りにも早いICT技術の進歩がその予想を難しくしていますが、東京オリンピック／パラリンピック開催時にはどんな新しいICT技術が開花しているのか思い巡らせるのも楽しいでしょう。きっと4Kや8Kなどの高精細画像技術は十分に完成していることでしょう。動きの激しいスポーツ観戦には高精細画像技術は最適です。また屋内外の位置情報の高度化にも期待しています。変わったところでは、無線電力伝送技術やセンサネットワーク技術などもインターネット技術の更なる発展に寄与するのではないのでしょうか。もちろん、小形省電力の電子機器の開発にも期待しましょう。5G移動通信システムの出番も近そうです。こうした電子情報通信技術の進展が、健常者の方だけでなく社会的弱者の人々にとってもオリンピック／パラリンピックを簡単に快適に観戦参加できるような手段を提供してくれるのではないかと期待しています。そして今後とも本会が広範なICT技術の中核的なけん引者であり続けてほしいと願っています。

ガンバレ、電子技術立国ニッポン！